

花と緑の

日岡山

歩いてまわれるコースで名所旧跡を紹介する散策シリーズ。
 からしなの黄色いシユータン、緑の木立ち、そして桜のアーチのとおりぬけを楽しむ「花と緑の日岡山コース」。

加古川再発見に、さあ、出発！



コース 所要時間 1時間31分・6.0km

日岡山公園

0.9km
14分

日岡神社

1.1km
17分

水管橋

2.0km
30分

新井緑道

2.0km
30分

日岡山公園

花と緑の 日岡山



日岡山公園

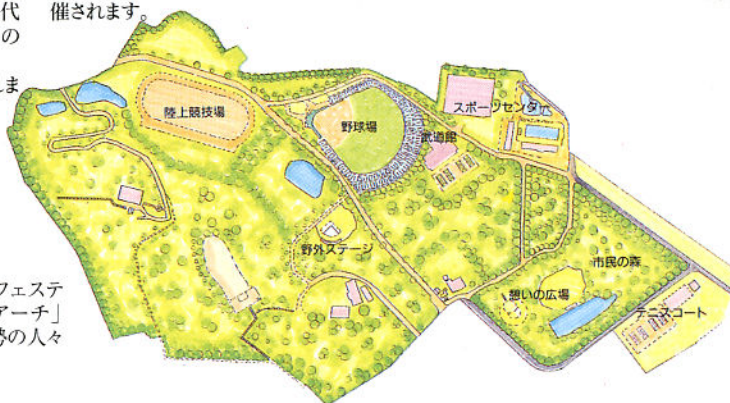
JR加古川線・日岡駅下車徒歩5分

35.8%の公園内は、日岡御陵をはじめとして古墳群が歴史を語り、数々の現代施設が市民を迎えます。OAAはまりん、総合運動場、野球場、1200人収容の体育館、50mプールやファミリープールを完備したスポーツセンター等々。春には桜やつつじが全山を彩り、家族連れて休日を楽しむ人もたくさんみられます。



桜の園路

花見の頃や「花とみどりのフェスティバル」の時期には「桜のアーチ」の下に出店等多数揃い、大勢の人々ににぎわう。



稲美野も

行き過ぎかてに思へれば
心恋しき可たの島見ゆ

柿本人麿



日岡御陵

日岡山にある景行天皇の后、稲日大郎媛(いなびのおいらつめ)の御陵です。

皇后がなくなられた時、遺体を船に乗せて印南川(加古川)を渡ろうとすると、にわかになきなつむじ風が吹いて遺体もろとも船が沈んでしまいました。匣(くしげ)と袖(ひれ)だけが上がり、これを葬ったのでこの御陵をひれ墓ともいいます。

秋になると参道には秋の花が連なり深い情趣がたどります。



日岡神社

正一位日向大明神ともいいます。主神は天伊佐々彦命です。命(みこと)は、神武天皇が東征の時、印南で天皇をお迎えして、祖神の豊玉比売命(とよたまひめのみこと)と葺不合命(ふきあえずのみこと)にお願いをするようにおすめになり、その力添えを得て荒ぶる神をたிரけたといいます。

安産の神様として名を馳せ各地からも大勢の人が参詣します。社殿に向かって右側手前に日岡御陵への表参道があります。

ひれ墓

日岡山山頂に大きな前方後円墳があります。この日岡御陵は稲日大郎媛(いなびのおいらつめ)のお墓だといわれています。

むかし、崇神天皇のころ、山陽道から吉備道をたிரげるため、大吉備津日子命と若建吉備津日子命の2人が針間(播磨)へ送られましたが、2人は氷河(加古川)の前に居を構え、吉備の国をたிரげました。

この若建吉備津日子命の娘に稲日大郎媛という美しい姫がいました。

そのうわさは時の天皇(景行天皇)にも聞こえ、姫を妻に迎えた。この地にやってきました。天皇が播磨にお入りになったと聞いて姫は驚いて、これはおそれおおいと南比都麻島(なびつましま)へ逃げ渡ってかくれてしまいました。天皇が賀古の松においでになり姫をさがされているとき、一匹の犬が海に向かって長くほえました。天皇が、「これは誰の犬か。」と、聞かれると、村の人が、「これは姫が飼っている犬です。」と言ったので、姫が島にかくれていることがわかり、天皇は島にお渡りになり印南の六継の村へ姫といっしょにお歸りになり、城宮で結婚式を挙げられました。長い年月がたち、皇后がおなくなりになり日岡山に葬ることになりました。遺体が印南川(加古川)を渡っている時です。にわかになきなつむじ風が吹いて、船は転覆し、後に「ひれ(天女が背からかけている布)」と「くしげ(櫛箱)だけがみつかりました。人々は、この二つの品物を葬りました。このお墓が日岡御陵で「ひれ墓」と呼ばれています。

